

泌尿器科 波多野孝史医師の論文が、海外で運営されている医学・生物学系の研究者コミュニティサイト Global Medical Discovery (略称 GMD) が選定する Key Clinical Research の一つに選定され、同ホームページで公開されました。このことは、本論文が臨床医学研究分野の発展に資する重要な知見を記したものとして高い評価を受けたことを意味しています。

研究論文

Hatano T, et al. Shrinkage of prostate volume in sunitinib-treated patients with renal cell carcinoma. (2013) JJCO 43 (12): 1282-1285.

(Global Medical Discovery 誌のホームページ)

<http://globalmedicaldiscovery.com/key-clinical-research-articles/shrinkage-prostate-volume-sunitinib-treated-patients-renal-cell-carcinoma/>

研究概要

転移を有する腎癌の患者さんの治療において、スーテントという薬剤が広く使われています。この薬剤は腎癌に有効であることに加えて、前立腺にも作用し前立腺が縮小することにより排尿状態が改善することを、当院泌尿器科 波多野医師らのグループが世界で最初に実証しました。

男性腎癌患者さんの約 70%は前立腺肥大症を有しており、その半数は前立腺肥大症の治療を受けています。このような患者さんに対し、スーテントによる治療を行うことによって前立腺が縮小することや、排尿状態が改善するという情報は大変重要と考えます。

当院においては患者さんに質の高い医療を提供するとともに、このような臨床に直結した研究もあわせて行い、医療の発展に貢献しております。